

Open Qubeの作り方



Sep, 11, 2003

Hisao SHIBUYA

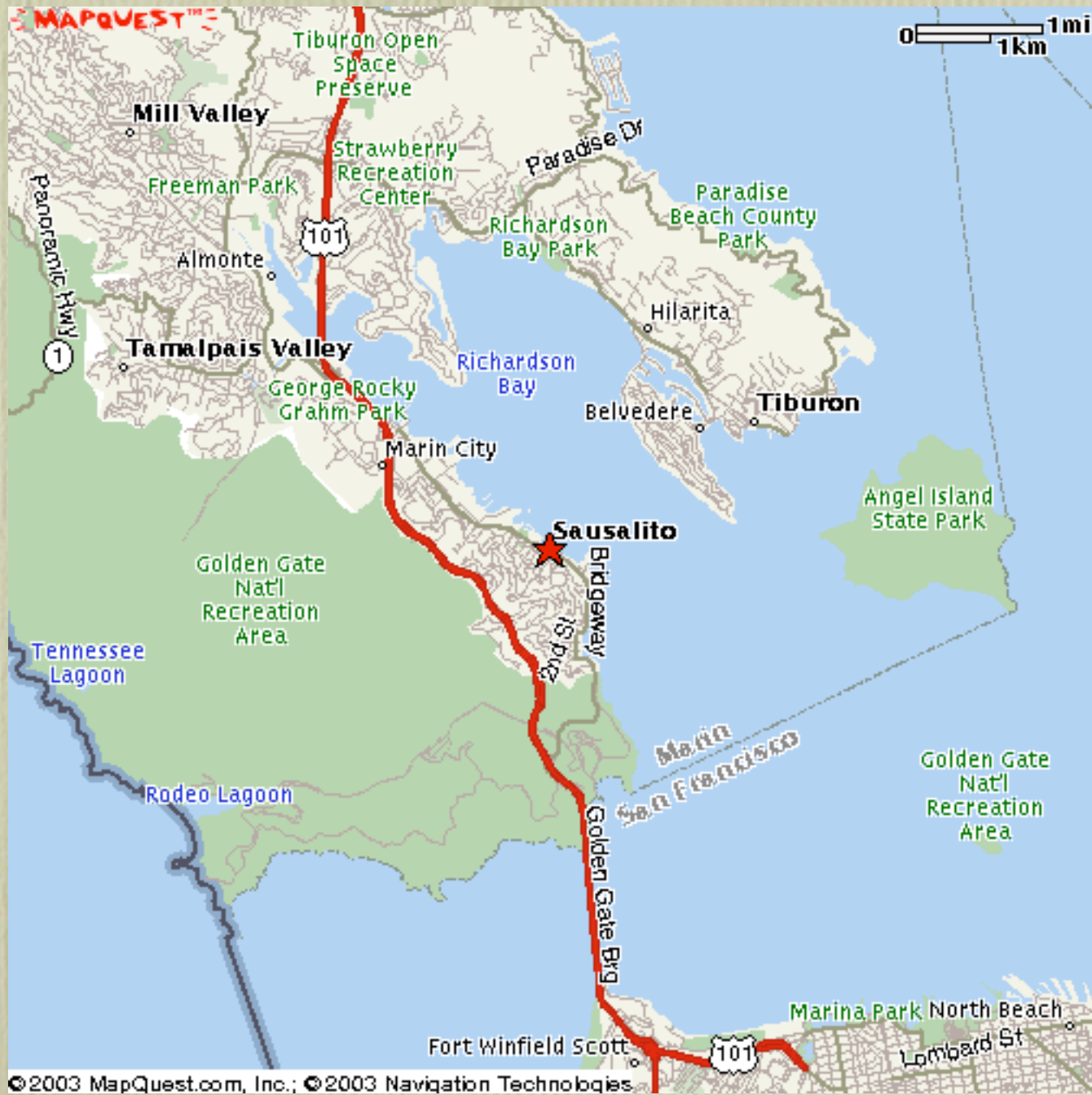
<shibuya@alpha.or.jp>

What is Open Qube?

- Sun Cobalt Qube3 PlusのGUI部分がオープンソースとして公開される(Sausalito)
- PCにRed Hat Linuxをインストールし、その上に公開されたGUI部分をインストール
- オープンソースで作られたQube

-> Open Qube

Where is sausalito?



Red Hat Linux 9のインストール

- サーバ用のインストール
開発する場合は開発用の環境もインストール
- 必要なパッケージ
 - expat(アクティブモニタで必要)

インストールするときの注意点

- /home, /varは別パーティションに
 - ディスク使用状況を表示するのに必要
- /homeはquota対応に
 - /etc/fstabを変更

```
/dev/md1          /home          ext3
defaults,usrquota,grpquota  1 2
```

- quotacheck -a

その他必要なパッケージ

- re2c(正規表現をC言語に変換するプログラム)
- perl module(CPAN)
 - Jcode
 - Quota
- Cobaltのパッチを当てたglib(Not glibc)
 - GHashIter関数が追加)
(RaQ550ではcced内に含まれる)
 - <ftp://ftp.cobalt.sun.com/pub/products/qube3/OS-6.4/SRPMS/>
- その他
 - swatch(アクティブモニタ)

開発をはじめる前に

- 開発に必要なパッケージをインストール

`ftp://open.cobaltqube.org/pub/OpenQube/redhat/
pkgs/RPMS/`

- `rpm -Uvh *`

手っ取り早く使うには

- `ftp://open.cobaltqube.org/pub/OpenQube/redhat/RPMS/`
- `rpm -ivh *`
- めんどくさい場合は再起動
- `/etc/init.d/cced.init start`
- `/etc/init.d/httpd restart`
- `touch /etc/build`
- ブラウザで `http://FQDN:444/`

ソースの取得 (Anonymous)

- Anonymous CVSからソースを取得
\$ cvs -
d:pserver:anonymous@open.cobaltqube.org:/
cvsroot login
(パスワードはなし)
- cvs -d:pserver:anonymous@open.cobaltqube.org:/
cvsroot co -r DEV_OpenQube *module_name*

ソースの取得 (CVSアカウントを使う)

- 環境設定

```
export RSH=SSH
```

```
export
```

```
CVSROOT=:ext:username@open.cobaltqube.org:/
```

```
cvsroot
```

- `cvs co -r DEV_OpenQube module_name`

ビルド開始

- まずはui/devel-toolsから
- 基本的なビルド方法

```
# cd ui/devel-tools
# make rpm
```
- rpmsまたはas_rpmsにRPMSがコピー

```
rpms = *.i386.rpm
as_rpms = *.noarch.rpm
```

ログインまでの道

- いくつかのモジュールをインストール
- ビルドする順番

ui/devel-tools

ui/i18n

cce

ui/base-winshare

ui/sauce-basic

ui/palette

ui/gallery

ui/carmel.mod

ui/base-user.mod

依存関係が . . .

- rpmから依存関係のエラーが表示された . . .
あきらめてrpm --nodepsでインストール
- devel-tools, ii8n, cceあたりは依存関係のループが発生

変更点

- PHP 4.1.x以上への対応
 - PHP 4.1以降でAPIの書き方が変更
 - Qube3のPHPは4.0.6
 - メッセージカタログのエンコーディング変更
 - インストールする際はEUC-JPなのにCVS上のファイルはSJIS
- EUC-JPに変更

変更点

- PHP用設定ファイルの追加
 - Red Hat Linux 9では/etc/php.d以下にある設定を自動的にinclude
 - 処理が楽になりました;-)
- 追加内容
 - cce.ini, i18n.iniを追加
 - cce.so, i18n.soをextensionに設定
 - include_pathを設定
 - registered_globalをOnに
セキュリティ上問題が . . .

変更点

- Apache用設定ファイルの追加
 - Red Hat Linux 9では/etc/httpd/conf.d以下にある設定を自動的にinclude
 - 処理が楽になりました;-)
- 追加内容
 - sausalito.confを追加
 - VirtualHostの設定で444番ポートを使用
 - logファイルの設定
 - Aliasの設定
 - 81番ポートでSSLも使えるといいな

ログインしてみる

- `http://FQDN:444/`にアクセス
- adminのパスワードは？
 - ‘admin’に初期化される
- rootになれない・・・
 - こちらも‘admin’に初期化される

インストールしたはずなのに・・・

- 新しくインストールしたモジュールがメニューに表示されない

`/etc/init.d/cced.init restart`

- モジュールを追加する度にリスタートが必要

注意点

- make rpmはrootで行う
 - いいのか, それで . . .
- rpm -taが使えない
 - rpmbuild -taに書き換え
 - <http://www.rpm.org/hintskinks/rpmbuild>
- コンフィグのパスが結構違う

注意点(パッケージ)

- ftp用パッケージがvsftpd
- あらかじめユーザは作らない
- ホームディレクトリは/home/usersの下
- gettextのバージョンがあがっている
 - msgfmt, msgunfmtに-eオプションがない
zh_CN zh_TWがビルドできない
 - フォーマットが変わっているためmsgunfmt
で元に戻せない

今後の課題

- autoconf, automakeに誰か対応してくれないかないなー
- isoイメージも作りたいなー
- お手伝いが欲しいなー
- 時間が欲しいなー
- FHSへの対応

開発に参加するには

- メールングリスト
 - `coba-o@open.cobaltqube.org`
156 subscribers(Sep, 11, 2003)
 - `cvb-commits@open.cobaltqube.org`
7 subscribers(Sep, 11, 2003)
- Anonymous CVS
- CVS on the Web
 - <http://open.cobaltqube.org/cgi-bin/cvsweb.cgi>

開発のお手伝い募集中

- ポーティングをしてってくれる人
- テストをしてしてくれる人
- ドキュメントを書いてくれる人